

平成 30 年 度

## 特進入学試験・一般入学試験

### 国 語

時間： 50分  
満点：100点

#### 受験についての注意

- 1 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開かないでください。
- 2 問題用紙は11ページ、問題は一～三まであります。
- 3 開始の合図があったら、まず解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
- 4 試験中、問題用紙の印刷が見えにくい、または文章等で不明な点がある場合は、手をあげて監督者に知らせてください。ただし、問題に関する質問には、いっさいお答えできません。
- 5 各問題とも、解答は解答用紙(別紙)の所定欄に記入してください。
- 6 終了の合図があったら、ただちに筆記用具を置き、監督者の指示にしたがってください。
- 7 解答用紙だけ回収します。問題用紙は持ち帰ってください。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人間に欲望があるが故に、科学は発展してきたと言えないでもない。実際、好奇心に駆動されてどんどん想像力を膨らませ、未知の物質が秘めている力をもっと知りたい、そこに何かを付け足すことによって思いがけない機能が発現するのではないか、というような人間が本来持つ探究心によって科学や技術の先端部が切り拓かれてきたのは事実である。これも欲望と言って差し支えないだろう。そもそも人類は生き残りたいという欲望があればこそ、厳しい自然環境を乗り越えて持続してきたことは疑いない。神の啓示を読み取りたいという自然哲学者の欲望があり、自然を理解したいという現代の科学者の欲望も同じ範疇に入る。精神的欲望そのものは、人間を人間たらしめている要素なのである。

A、二〇世紀に入って欲望に関わる様相が変わってきた。欲望がもつばら物質的なものと結びつき、戦争に勝利する、金儲けにつながる、便利さを向上させる、というような直接の効能や利得を求めようになったからだ。そして、科学もそれに歩調を合わせ、精神的な欲望を置き去りにして、物質的な欲望を満たすことにホンソウするのがその目的であるかのように変質したのである。

かつては「必要は発明の母」であった。技術は物質的な欲望から出発したのは事実だが、「必要」という精神の飢えが「発明」という物質的生産へと導いたことを忘れてはならない。精神が物質をコントロールしていたのだ。しかし、現代は「発明は必要の母」となった。「発明」品を改良して新たな機能を付加することにより、人々に「必要」であったと錯覚させ、消費を加速したのである。必要と発明の関係が逆転し、物質が精神を先導するようになったと言える。物質こそが資本の根源であるからだ。でも、それでは真のイノベーションはあり得ない。精神的な欲望は時間を区切らないが、物質的欲望は短期の目標で進む。現代科学を底の浅いものにしてきているのは、物質的欲望を第一義としてきたためだろう。現代科学は物質的欲望に翻弄されていると言えるかもしれない。

その端的な例は、浪費を美德とする社会的風潮であろう。大量生産・大量消費・大量廃棄こそが現代社会を構築している基本構造であり、買い換え使い捨てがシヨウレイされている。そして、科学や技術をそれに動員することこそが至上命令になっている。「役に立つ」ことがなければ意味がなく、「欲望を刺激する」要素がなければ開発が認められず研究費も出ないのだ。大学における経済論理の貫徹や実用化への圧力は、その方向への誘導であり、科学者も本意であれそれに従っていかざるを得ない。物質的欲望が科学を駆動していると言えよう。浪費社会に対して、「清貧の社会」という対極的な社会の構想がある。物質的な欲望を拒否し、精神的な欲望を充足させることを第一義とする社会である。物質における満足を求めるのではなく、精神の自由な飛翔を得ることこそを至上とする社会とも言える。私はそのような社会を希求しているのだが、それは不可能なのだろうか。そして、そのような科学は発展の芽を摘まれるのであろうか。

確かに、科学は物質的基盤がなければ進歩しない。実験の技術開発があればこそ仮説が実証され、それを基礎にして新たな知見が得られていくからだ。あるいは、実験によって思いがけない新現象が発見され、それによって科学の世界が大きく広がったこともある。しかしながら、あくまで科学を推進しているのは好奇心や想像力、つまり創造への意欲であり、精神的欲望がその出発点なのである。それが萎えてしまえば科学は立ち枯れてしまい、技術的改良のみの詰まらない内容になってしまっただろう。経済論理が強調され、実用主義が罷り通る現代は、その入り口に差し掛かっているのではないだろうか。物質的欲望に囚われない清貧な社会でこそ、真の科学は花開くと言うべきなのである。

物質的欲望がどんどん勝っていくとどうなるか。一つは、「欲望は欲望を呼び」、満足する、自足するという感覚を失っていくことだ。

B、より欲望を膨らませようとするから、自分が制御できなくなる。その状況は麻薬に似ている。現代の成長至上主義は市場の麻薬であり、戦争を必然化する。資源が枯渇するとウバウシ<sup>E</sup>がなくなってしまうからだ。それを恐れて軍事を増強し、核兵器で武装する。結局は、人々の生活に役立たない兵器ばかりが蓄積されていくことになる。役に立とうという物質的欲望は空回りし、かえって役に立たない浪費を積み重ねていくばかりとなってしまうのだ。戦争ばかりではない、技術を通じての欲望の達成も同じ状況が引き起こされている。私たちは、世の中に流通しているものに目を惹かれるが、流通せずに闇から闇へと廃棄されていったものはゴマンとあるだろう。物質に固執すれば、有限の可能性のなかで盛衰が生じざるを得ないのである。精神的欲望は無限であり、いずれも生き残る可能性を秘めていることと決定的な差があることを忘れないでいたいものだ。

池内了『科学と人間の不協和音』より

問一 二重線部A～Eのカタカナは漢字に直し、漢字には読みをつけなさい。

問二 空欄部A・Bに入る語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|
| ア | A | または  | B | たとえば |
| イ | A | けれども | B | ただし  |
| ウ | A | しかし  | B | そして  |
| エ | A | しかも  | B | あるいは |

問三 傍線部①「発明は必要の母」とあるが、その意味内容として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人々の欲望に合わせて新たな機能を付加した「発明」品を売れば、消費者はそれを喜んで受け入れてすぐに買う、ということ。

イ 「発明」品を改良して新たな機能を付加すれば、人々はそれこそが自分にとって必要だったのだと思いついて買う、ということ。

ウ 新しい技術によって「発明」品に新たな機能を付加すれば、人々はその機能が必要だったと初めて気づいて買う、ということ。

エ 人々が必要だと感じていなかった機能を付加した「発明」品を作ると、人々はそのが実際には必要でなくても買う、ということ。

問四 傍線部②「浪費を美德とする」と反対の考え方はどのようなものか。本文中から三十五字以内で抜き出し、その初めと終わりの各五字を答えなさい。

問五 傍線部③「物質的欲望に囚われない清貧な社会でこそ、真の科学は花開くと言うべきなのである」とあるが、なぜか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 科学を推進するのは科学者の創造への意欲であるが、経済論理が強調されると、科学者の意図を無視した技術改良だけが求められ、科学者の創造への意欲は不要になるから。

イ 科学は物質的な基盤がなければ進歩しないため、物質的な満足を優先しなければならない社会では、科学者の意欲は、物質的満足にしか向かわなくなるから。

ウ 経済論理が強調されると、科学も実用主義になって、科学を推進してきた科学者の創造への意欲が邪魔なものと見なされ、科学も単なる浪費と化してしまうから。

エ 科学が物質的欲望を満たすことを目的とすると、科学は技術的改良ばかりを行うことになり、科学者の創造への意欲が弱まって、科学は発展しなくなってしまうから。

問六 傍線部④「同じ状況」とあるが、どのような状況か。本文中の語句を用いて五十字以内で説明しなさい。

問七 本文の内容と一致しているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 現代においては浪費が美德とされ、大量生産・大量消費・大量廃棄が社会の基本構造になっているため、科学も「役に立つ」もの

の開発に力を入れるようになり、科学の世界は、大きく広がった。

イ 現代の浪費社会では、物質的欲望を刺激するものの開発が求められ、「役に立つ」ものの開発にのみ研究費が出ているが、本当に「役に立つ」ものは、「清貧の社会」でなければ生み出されない。

ウ 現代の社会は実用主義で、経済論理が強調され、物質的な欲望を充足させることを第一義としているが、そのような社会の中で、科学の目標が物質的欲望の充足だけになることは、望ましくない。

エ 現代の経済論理が強調される社会では、「役に立つ」もの以外は無意味とされる一方、満足するという感覚が失われ、技術的改良で新たな機能を付加されたものの多くが、使われずに廃棄されている。

この部分に記載されている文章については、著作権法等の理由から、公表しておりませんので、ご了承願います。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分に記載されている文章については、著作権法等の理由から、公表しておりませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、著作権法等の理由から、公表しておりませんので、ご了承ください。

問一 二重線部A～Eのカタカナは漢字に直し、漢字には読みをつけなさい。

問二 傍線部①「お互いの視線が小さな陶片の上に注がれ、そこで拮抗している」とあるが、これはどういうことを表しているか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 二人が小さな陶片をはさんで、互いに張り合うように、敵意を抱いた目つきでにらみ合っていること。

イ 二人がともに小さな陶片を見て、どちらも目をそらそうとせず、そのまなざしの強さが優劣つけがたいこと。

ウ 二人が同時に小さな陶片を見たために、二人が思わず顔を見合わせて相手の表情をうかがっていること。

エ 二人がそれぞれ小さな陶片を見つめながら、互いの出方を探るように身体を硬くして身構えていること。

問三 傍線部②「固唾をのんで、五、数えた」とあるが、このときの「私」の気持ちとして適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 七葉は陶片を掌に包んでこれからどうするつもりなのだろうと、不安と疑問の入り交じった気持ちになった。

イ 自分もその陶片を手に入れたと思うっていたのに、このまま七葉が取ってしまうのではないかと、動揺した。

ウ 七葉が握った掌を開いてくれることを期待しながらも、本当に開いてくれるかどうかかわからず、緊張した。

エ 店のものである陶片を七葉がこのまま取ってしまったら、祖母や父にどう言えばよいのだろうか、迷った。

問四 傍線部③「祖母の顔色がみるみる変わった。眉が上がり、唇がきゅっと結ばれた」とあるが、このときの祖母の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の言うことなら七葉は何でもきくだろうと思っていたのに、思いがけず「返して」と抵抗されたため、自分がばかにされたような気がしてかっとなり、言うべき適当な言葉が見つからなくて混乱した。

イ 店のものは玩具ではないし、二人の取り合いをやめさせるつもりで七葉から陶片を取り上げたのに、七葉が素直に従わなかったばかりか反抗的な態度をとったので、許せないという思いが一気に高まった。

ウ 店のものを二人で取り合っていたというだけでも許せなかったのに、取り合いをやめさせようとした自分の言葉に七葉が従わなかったので、怒りがさらに高まり、何が何でも七葉に謝らせようと決意した。

エ ここにあるのは店のもので玩具ではないことを冷静に言い聞かせたつもりだったのに、七葉がまるで自分のものを祖母が取ったよいうな言い方をしたので、どうしたらわからせることができるのかと困り果てた。

問五 傍線部④「私は呆気に取られていた」とあるが、このときの「私」は七葉のどのような行為に驚いたのか。五十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部⑤「どうして、と言いかけて、やめた」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 女の子の喧嘩では、怒鳴ったり、叫んだりした方が負けだという考えを、祖母が変えるとは思えなかったし、実際、欲しいものを欲しいと強く言える七葉の強さに、自分は負けていると感じたから。

イ 七葉が欲しいものを欲しいとはっきり言ったのに対して、「私」は欲しいと言わなかったことを考えたら、この喧嘩は「私」の負けだという祖母の判断を、納得して受け入れることができたから。

ウ 女の子の喧嘩では、怒鳴ったり、叫んだりした方が負けだという祖母の言葉には納得できなかったが、それよりも、祖母にしかられて泣いて出ていってしまった七葉のことが、心配になったから。

エ 「私」の負けだと祖母に言われたことは意外で、なぜそういうことになるのか知りたいとは思ったが、それぞれがもう少し冷静にならなければならぬと、納得のいく答えは得られないだろうと思ったから。

問七 空欄部⑥に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 虚栄心      イ 克己心      ウ 執着心      エ 自尊心

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

注1 慈恵僧正良源、座主の時、受戒行ふべき定日、例のごとく催し設けて、座主の出仕を相待つの所に、途中よりにはかに帰り給へば、供の

者ども、「こはいかに」と心得がたく思ひけり。衆徒、諸職人も、「これ程の大事、日の定りたる事を、今となりて、さしたる障りもなきに

延引せしめ給ふ事、しかるべからず」と誘ずる事限りなし。

注2 諸国の沙弥らまでことごとく参り集りて、受戒すべき由思ひあたる所に、横川の綱せうかうを使つかひて、「今日の受戒は延引なり。重ねたる催し

に随したがひて行はるべきなり」と仰せ下しければ、「何事によりてとどめ給ふぞ」と問ふ。使、「全くその故を知らず。ただ早く走り向ひて、こ

の由を申せとばかりのたまひつるぞ」といふ。集れる人々、おのおの心得ず思ひてみな退散しぬ。

かかる程に、未の時ばかりに、大風吹きて、南門にはかに倒れぬ。その時人々、「この事あるべしとかねて悟りて、延引せられける」と

思ひ合せけり。受戒行はれましかば、そこばくの人々みな打ち殺されなましと、感じののしりけり。

『宇治拾遺物語』より

注1 慈恵僧正良源 … 第十八代天台座主（九一二〜九八五年）。

2 受戒 … 仏門に入る者が戒律を受けること。この儀式で僧として公認されることになる。

3 定日 … あらかじめ定められている日。

4 衆徒、諸職人 … 比叡山延暦寺の大勢の僧侶と、法会の際に役を務める僧侶たちのこと。

5 沙弥 … 仏門に入って剃髪し、得度式のみ終えた男子のこと。

6 横川の小綱 … 横川は、延暦寺の塔の一つ。小綱は、特別な役僧。

問一 波線部A「帰り給へば」、B「いふ」の主語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 慈恵僧正良源      イ 供の者ども      ウ 横川の小綱      エ 集れる人々

問二 傍線部①「これ程の大事」とは、何か。本文中から二字で抜き出しなさい。

問三 傍線部②「思ひるたる所に」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

問四 傍線部③「受戒行はれましかば、そこばくの人々みな打ち殺されなまし」とあるが、その意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仮に受戒が行われても、多くの人々が皆下敷きになって死ぬかはわからない  
イ 万一受戒が行われなくても、多くの人々が皆下敷きになって死ぬよりましだ  
ウ もし受戒が行われなかったら、多くの人々が皆下敷きになって死んだのだろうか  
エ もしも受戒が行われていたら、多くの人々が皆下敷きになって死んだだろう

問五 本文の内容と一致しているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 慈恵僧正良源は、受戒を行う予定だった日、突然受戒を延期すると言って帰ってしまったため、他の僧たちは僧正を非難した。  
イ 慈恵僧正良源は、受戒を行うために準備をしていたとき、大風が吹いて南門が倒れると予感したため、人々を走って帰らせた。  
ウ 慈恵僧正良源は、受戒を延期することに決めたとき、その理由を使者を通じて人々に伝えようとしたが、使者は伝えなかった。  
エ 慈恵僧正良源は、受戒を行う日を変更したが、その直後に大風が吹いて南門が倒れたので、人々は僧正に不満を言えなくなった。